

## 献辞

八木鉄男先生の古稀をお祝いする記念論文集をここに刊行することができました。心からのお慶びの気持ちをこめて先生に献呈させていただきたいと思えます。

先生は、一九五五年に同志社大学法学部に奉職されて以来、長い間、法学部での研究と教育に専念してこられました。先生のご研究の中心は法哲学であり、先生がこれまで発表されてきたイギリス、ドイツ、アメリカ合衆国、日本の法哲学に関する著書・論文は数多くにのぼっています。とくにイギリス法哲学についてのご業績はわが国の法哲学研究に新しい領域を開拓したものであり、学界で非常に高い評価をうけてきました。先生は一九六二年に『分析法学の潮流』（ミネルヴァ書房）を発表され、一九六四年にはそのご業績によって法学博士号（同志社大学）を授与されました。この書物を中心とするイギリス分析法学に関する一連のお仕事は先生の仕事のなかでも最も価値あるものの一つであり、わが国法哲学界の貴重な財産となっています。また『法哲学史』（世界思想社、一九六八年）は、ギリシャ、ローマ時代から今世紀までの法哲学の歴史を簡明に説きおこした名著であり、多くの研究者、学生たちを魅了してきました。その他にも、先生は『法哲学入門』（青林書院新社、一九七八年）、『分析法学と現代』（成文堂、一九八九年）など多くの著書・論文を発表され、それらによってわが国の英米法哲学研究の基礎を築いてこられました。

先生はまたお忙しい学問研究のかたわら、法学部長、人文科学研究所長などを歴任され、学部と大学の発展のために心を尽してこられました。また先生の心温かいお人柄と、学生を人一倍大事にする教育姿勢は、毎年、先生のご講義や演習に多くの学生たちが集まってきたことに示されています。とくに深い学識に裏打ちされた先生の情熱あふれるご講義は有名であり、学生たちに深い感銘を与えてきました。私自身も学生時代に先生の法哲学講義に魅了され、研究者としての道を志した者の一人です。

先生に教えを受けた者の一人として、この記念論文集の献辞を記させていただけることは大変な幸せです。本論文集の執筆者、そして同志社法学会会員一同とともに、八木先生のこれからの一層のご健勝と、ご研究の発展をお祈り致したいと思います。

一九九五年四月

深 田 三 徳

法 学 部 長